

「初等・中等教育課程において、ヒトの「遺伝」・「多様性」をどう教えるか」 ワークショップのお誘い

最近の遺伝子研究の成果が急速に医療に活用されつつあり、一般国民における遺伝リテラシー向上のためには、学校教育への導入が求められます。昨年度の「中等教育における「ヒトの遺伝」の導入に向けたワークショップ」に続き、より具体的に学校教育でヒトの「遺伝」・「多様性」をどのように扱うかの方策を考えていくワークショップを開催します。教員の皆様の声を共有したく、ぜひご参加ください。

日時 1月12日(月・祝 成人の日) 午前10時から午後4時

昨年度WS報告書



場所 東京都文京区内(詳細未定)

<プログラム>

進行 櫻井 晃洋 (札幌医科大学医学部遺伝医学)

1. 第1回ワークショップの振り返り 渡邊 淳 (日本医科大学付属病院遺伝診療科)
2. 基調講演 人類学の視点からヒトの「遺伝」・「多様性」をどう教えるか
日本人類学会の取り組み 太田 博樹 先生 (北里大学医学部解剖学)
3. グループワーク(1) : 学校教育でヒトの「遺伝」・「多様性」を扱う際の問題点
昼 食
4. グループワーク(2) : 分科会①から⑥ 『今』 どうするか
5. 講演 医療現場で「遺伝」はどう関わるか 認定遺伝カウンセラーの立場から
佐々木 元子(日本医科大学付属病院遺伝診療科)
6. グループワーク(3) : 分科会①から⑥ 『これから』の課題

<分科会 テーマ> (予定)

- ① 「生物基礎」でヒトの「遺伝」・「多様性」をどう教えるか
- ② 各教科(倫理、政経、現社、保健、家庭科、総合など)でヒトの「遺伝」・「多様性」をどう教えるか
- ③ 中学校でヒトの「遺伝」・「多様性」をどう教えるか
- ④ 初等教育でヒトの「遺伝」・「多様性」をどう教えるか
- ⑤ ライフステージにおける各年齢の遺伝リテラシーに関する到達目標
- ⑥ 学校現場で直面する「遺伝的多様性」にどう対応すればよいか

対象・人数 小・中・高等学校教員等で、「ヒトの遺伝」教育導入に興味のある方 50名

費用 無料

申し込み方法 メール genetic.edu.ws@gmail.com にて受け付け致します

氏名、所属、連絡先、希望する分科会(1~3 希望まで)、WSへのご要望 をお送りください

主催 日本遺伝カウンセリング学会 遺伝教育委員会、日本人類遺伝学会 教育推進委員会

共催 東京都生物教育研究会教育課程委員会、神奈川県生物教育研究会

連絡・問合せ先 genetic.edu.ws@gmail.com

中等教育における「ヒトの遺伝」の導入に向けたワークショップ 事務局